

21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会

能登半島地震 被災支援 カンパ NEWS

カンパご協力ありがとうございました！
総額 2,800,512 円が集まりました！

会員の皆さま

21・老福連の能登半島地震被災支援カンパに、全国の皆さまから多大なご協力を頂き、心より感謝申し上げます。

3月15日までに、**2,800,512円**(36の法人・事業所と5人の方から)が集まりました。

被災カンパは、2月末をもって一旦受付終了と致しました。

会員の皆さんにご協力頂いた支援カンパを地震被害にあわれたり、被災者受け入れをされた会員施設、金沢市・やすらぎ福祉会、新潟市・坂井輪会にお届けしました。

金沢市のやすらぎ福祉会では、避難してこられた高齢者が落ち着いて施設で生活されているとのことでした。

1.5次避難所で要介護認定が受けられず、速やかに2次避難できない例があり『こういう時に措置入所が必要ではないか』と話されていました。

「報酬改定でどこも運営が厳しい中、気にかけて頂いて有り難い。現在、被災された14名の方が入居・ショート利用、9名が通所利用されています。写真は、やすらぎ福祉会で2月初めに行ったお餅つきの様子です。被災地から来られた方と職員です。特養から転居された方もいますが、避難所となった輪島の小学校にやすらぎからお迎えに行ってお案内した方もいます。『あんたら珍しいこととするのー。わしら機械でついとるぞ』との声が上がりました。『能登に帰りたい、帰りたい』の訴えて言っていた方が、この日だけは『あー、おってよかったわ』と言って頂きました。」という状況報告と写真を送って頂きました。



新潟市の坂井輪会では、職員が家族や家財被害があり、公的支援申請とともに法人での支援も開始しておられます。施設建物被害には保険適用の目途もたちましたが、物価高騰等運営が厳しい中で費用を抑えての補修に頭を悩ませておられるようです。

「私たちの施設でも幸い人的な被害はありませんでしたが、老朽化していた特別養護老人ホームやケアハウス穂波の里の建物を中心に地盤沈下や液状化現象、外壁・内壁の細かな亀裂が入り、被害総額は5000万円と見積もられ厳しい経営をよりひっ迫させる状況になりました。また、職員も液状化で基礎が沈んだ(半壊)自宅では眩暈を起し立ってられないと家族離れてのアパート暮らしとなった職員や、自宅再建をあきらめ県外転居のため退職を選択した職員もあり、液状化被害だけでは十分な補償が受けられないのだと実感いたしました。この度、皆さまよりご支援頂いた寄付金につきましては、理事会や評議委員会、職員にも報告し、修繕費や職員支援に活用させていただき、利用者・入居者、そして職員の生活を守る法人であり続けるために、出来ることから一歩ずつ前に進んでいきたいと思っております。年度末の忙しいおり皆様もお身体ご自愛ください。本当にありがとうございました。」とお礼と写真を送って頂きました。



会員の皆さまからは、お正月から「人的支援が必要なら声をかけてください」「今カンパを集めているのでもう少し待ってください」など、何とか力になりたいとの沢山のお声とご協力を頂きました。本当に有難うございます。

21・老福連では、今後とも災害時の会員相互の支援に取り組みます。同時に、災害・感染症発生時の高齢者や地域住民への生活支援を、住民や法人・施設の自助、互助に丸投げすることなく、公的責任で行うよう引き続き求めていきます。

21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会 (略称：21・老福連)
〒603-8488 京都市北区大北山長谷町5-36 (担当：井上・橋本)
TEL：075-465-5300 FAX:075-465-5301 Email: roufuku@siren.ocn.ne.jp